

ゆきのまち
ギャラリー

99

紹介
ギャラリー萩
(石川県加賀市)
下口 豊子さん

新しい時代の新しい九谷焼

〈九谷焼作家〉
浦 陽子さん
(石川県加賀市)

いつの時代にどこに生まれるか、は工芸作家にとって運命的なものだ。浦陽子さんは九谷焼作家であるが、もしも九州で生まれていたら、有田焼でも十分にその才能を発揮できていたに違いない。遠く海外で、デルフト焼やエッジウッドの職人であっても不思議ではない。けれども有難いことに彼女は加賀の地で生まれ、九谷の土と釉薬を使って器を作っている。今の時代では珍しい蹴り轆轤で生地を作る。これも須田青華の直弟子だった橋本俊和・薫氏を師に持つことができた縁によるものだ。デザインソースは、イギリスのウイリアムモリスだったり、オランダのデルフト焼だったり、彼女がいいと思ったものを取り入れ独自のアレンジで描いている。色は九谷の五彩がベース。今までもあったかのような、でもどこか新しい文様は、取えて輪郭を描かず色で形を描き出す工夫がなされていて、柔らかく優しい印象の器だ。その辺り計算をしっかりとっているのだが、気負いなく軽やかで作為を感じさせないところが彼女の持ち味だろう。静かにファンが増えている、新しい時代の新しい九谷焼作家である。



花唐草煎茶碗 鳥唐草片口 花畑片口



うら ようこ

一九七五年奈良県生まれ、九五年金城短期大学美術科卒業。九七年曾宇森橋本俊和・薫岡氏に食器作りを習う。二〇〇五年独立。短大時代に焼き物への興味があり九谷焼作家の道を選んだという。結婚し三歳になる男の子の母親になり、作家としても一回り大きくなった気がする。

ギャラリー萩

古九谷の窯跡がある九谷村にあった土蔵を移転した建物。九谷ダム建設で立ち退きを余儀なくされるが、一九九七年加賀市大聖寺でギャラリーとして蘇った。無垢の素材でできた静かで安らぎのある空間。常設はなく地元作家の個展中心に企画展開催時だけギャラリーを開く。石川県加賀市大聖寺下屋敷町一丁目8

TEL: FAX 0761-73-2714
<http://gallery-hagiinfo/>

◎描き続けて50年 喜寿記念 長谷川清小品展 2015年5月8日(金)〜17日(日)